

<「事例検討会」全体を通しての感想・意見>

医療従事者	
小児科医	毎回、事務局で課題を選定し、事例検討会を継続させることは大変なご苦労があると思います。継続性を考える点からも、事例検討会に参加している人の中から、プロジェクトチームを編成し、企画会議を開催するなど、工夫されてはいかがでしょうか？
小児科医	ミニレクチャーでゲーム依存の概要がわかりました。 今日のようなグループワークがあると現場の話が聞けて良かったです。 一般小児科医で知識も経験もない自分は、身体症状を主訴としゲーム・スマホ依存傾向のある症例で、専門医療機関にもつなげられず、身体症状を糸口に外来を続けるようなことになることが少なくありませんでした。
その他	いろいろな立場の方達とのグループだったので自分とは違う意見も聞くことができました。
教育関係者	
養護教諭	いろいろの機関の方の話が聞けてよかったです。
養護教諭	とても面白かったです。ありがとうございます。 グループワークで多職種の方と顔を合わせられたのが良かったです。その時間がもう少し欲しかったです。
養護教諭	限られた情報だったが、様々な立場の視点で対応策を出し合うことで、誰がどう支えることが必要かについて考えることができて良かった。そこから、今の職場で自分にできることを考える視点をもらうことができた。対象児のこれまでの過程でターニングポイントとなっている時期があるはずで、そういう時期をどう関わってきたか、どう関わると良かったのかを想像し、考えることで、今、目の前にいる子どもたちへのかかわりを模索することにもつなげられるのではないか。
養護教諭	様々な職種の方とお話ができて、新たな発見があり、大変良かったです。実際、顔を合わせて検討会をしてみたいです。
養護教諭	大変満足度の高い研修でした。今までの経験をもとに支援を考えたり、皆さんの意見から今対応している子どもへの支援を振り返ったり、行きつ戻りつしながら参加できました。 冬休み明けに生活習慣を取り戻すための強調週間を予定しています。「伝道師」となり、ゲームのルールや切り替え方のコツを保護者に伝えたいと思っています。ありがとうございました。
養護教諭	ゲーム依存にならないためには、より早い段階で子供だけでなく、保護者も交えて講演会などの機会を作り、学んでいくことが大切だと感じました。また、ゲームをやめるのではなく、どのようにしてゲームとうまく関わっていけば良いのかという視点で支援する必要があると改めて感じました。
養護教諭	様々な職種の方と意見交換をしたことで、今までの自分にはなかった考え方やサポートの仕方について知ることができました。
教員	会を重ねるごとに内容が充実し、とても大切な研修の機会です。 中学校現場で、こういった知識を知っていて対応するのはとても大切なことだと考えます。
教員	ゲーム障害や依存について、理解を深めることができた。また、事例についてグループで話すことで、ゲーム障害や依存について考えながら大事なことが明確になってよかった。色々な職種の方から話を聞くことができ、貴重な時間だった。他のグループの話を聞くことができたのも大変よかった。もっと聞きたかった。大変貴重な時間でした。ありがとうございました。
教員	不登校の状態にある子は、ゲームに依存している状態のことが多い。保護者は不登校の原因をゲームと考えて、子どもとトラブルになることも多いと思う。保護者のフォローや、ゲームに対する考え方や見方を変えてもらう必要があるが、それには学校(教師)から話すより、医療であったりカウンセラーであったりと、立場を変えて話してもらった方がよいと感じた。チームで対応できるような体制が地域とれるのが、今後の課題だと感じた。
教員	事例が良かったです。 次回も楽しみです。グループも多職種で良かったです。できれば同じ地域の人と繋がりたいです。

教員	参考図書を紹介していただけてよかったです。素早くアマゾンのリンクを貼っていただけたことも有り難かったです。 グループワークでは、(どうでもよいことかもしれませんが)司会・発表者が「2番目の人」というところが嬉しかったです。このような初対面の方が集まるところでは、必ず「1番の人」で、50音が早い私はいつも役割を与えられます。配慮を感じられ、本当に嬉しく思います。いろんな職種・分野の方と同じグループになったので、皆さんのお話が大変貴重でした。
教員	充実した検討会に、zoomで参加できることがありがたいです。 コンパクトでわかりやすいレクチャーや質疑応答での先生方からの話は毎回ありがたいです。県のホームページに掲載される内容も楽しみです。 グループワークで日頃接することのない方々の話を聞けるのも貴重だと思うので、ぜひこれからも期待しています。
教員	グループ内に複数の職種の方がいらっしゃり、これまでにない視点のご意見をお聞きすることができました。 それぞれの方のお考えや普段取り組まれていることなどお聞きすることはできたのですが、深く事例検討ができず残念でした。
教員	自分の住む地域で、多くの方々が知識を得て、様々な症例に対処することができると、支援会議等の中味が充実して、結果、本人や保護者に対して大きな助けになると思います。 堂々巡りの支援会議も少なくない現状を、少しずつ打破していけたらいいなと、教育の現場からいつも思っているところです。
教員	初めて参加しましたが、多様な立場の方が参加しており、とても刺激になりました。また、アプローチの仕方も、異なる所属の方の発想はとても参考になりました。課題を多面的に捉えるためにも、とても大切な場だと感じました。
教員	ゲーム依存について学習する機会を与えていただき、ありがとうございました。 すでに5回の事例検討会が行われていたことがわかったので、今までの検討会の資料をみたいと思います。 今回、この事例検討会の案内は県教育センターの研修で教えていただきました。今までも学校にも案内があったのかもしれませんが、私は気が付きませんでした。次回の案内について、どこから情報を得れば良いのかかわかるとありがたいです。
教員	大変有意義な時間でした。2月も参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
教員	とても参考になりました。時間がもっとあったら良かったと思いますが、次回もあるとのことですので楽しみにしております。貴重な機会をありがとうございました。
教員	ゲーム依存ということで、どういった経緯で子供達がゲームにのめり込んでいくのか。また抜けられないのか。それらを確認することができた。自分の現状をうまく言語化できない年代の子達だからこそ、上から正論を押し付けるのではなく、どんなことを抱えているのかを丁寧に汲み取っていくことが必要である。そしてそれらが私たち大人の役目なのかなと思った。
教員	毎回、ミニ講義と事例検討、グループワーク等、盛りだくさんで、貴重な学びの機会をいただいています。教育・福祉・医療の各分野の皆さんと一緒に学ぶことは非常に大切だと思います。今後もぜひ継続していただきたいです。可能なら、1年のうち1回くらいは対面での研修があってもよいのかなあとと思いますが、時間や会場、費用などの面で難しいでしょうか。
教員	医療・福祉の分野からたくさんのご意見をお聞きすることができ、大変ありがたかったです。 ゲーム依存のお子さんについては、長い目で、家族や医療と連携しながら支援をしていきたいです。
教員	とてもわかりやすかった。今まで関わったさまざまな生徒の顔が浮かんだ。ゲーム機を取り上げるのが禁忌というのは実感としてあったが、医療の立場の言葉は支えになった。「専門家」ではないので保護者への説得力がなく、今後も医療福祉教育と連携して関わっていききたいと感じた。ありがとうございました。
スクールソーシャルワーカー	とても分かりやすい内容で、グループでも活発な発言がありとても充実した研修でした。

スクールカウンセラー	2回目のゲーム障害に関わる研修を楽しみにしています
スクールカウンセラー	低年齢のうちに予防教育をすることが大切なのだと思います。講演会などで保護者向けにもっと周知されるといいと思いました。
スクールカウンセラー	これまで情報提供していた医療情報は概ね妥当だったと感じていますが、「予約が取れないので見合わせた。そして、どうしたらいいか」と後日訴えられる保護者が少なくないです。グループセラピーを情報提供したいが受診を経てとなると相当の待期期間が生じることになり、案内しても保護者としてはあまり助けにならないのではないかと推察します。グループセラピーを提供可能な機関やスタッフが増えるとういと思いました。(特に県央地域は新潟市から見ると社会資源が少ないと感じます。)
スクールカウンセラー	有意義でした。ありがとうございました。グループでの話し合いでは、いろんな職種の方々と一緒に意見を交換出来、良かったです。
スクールカウンセラー	様々な立場の方から実際の対応についていろいろなアイデアをいただいて、非常に参考になりました。多職種で連携する前に、地域でこんな対応ができるというそもそもの関係を作っておくことが必要だと感じました。一方でどのようにして関係を作っていくとよいのか?とも思いました。事例検討会でのブレイクアウトルームを作る際に、地域別にしていただけるとよいのかもしれないなどと思いました。
スクールカウンセラー	講師の先生からの講義に加え、多機関の多職種の方たちとディスカッションしながら学ぶことができました。また機会があればぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。
その他	不登校やひきこもりの当事者にとって、ゲームに依存することで、なんとか家の中で居られるという方も多いように思います。そういう方にとっては、まずはゲームの話ができるということが、家族や支援者と繋がるための窓だったりもします。一方で、ゲームをし続けることが社会復帰への阻害要因になっていることも多く、家族や支援者にとっては相反する思いを持ってその方のお話を聞くことになります。今回の検討会では、ゲーム依存の当事者と関わっていく難しさを感じるとともに、依存の背景を理解することの大切さを再認識しました。
その他	大学の研究者の方から最新の情報や成果を伺うのはありがたいことです。今回のような、幼児期、学童期のタイムリーな課題については多くの立場の方の関心が高いと思いました。ぜひ、次回も実施してください。
その他	ゲーム依存に陥っているのは児童生徒であるが、それ以前に保護者の養育態度や環境、学校など周りで関わる大人に大きく影響しているのではないかと感じている。保護者の教育力も含め、困っている時に援助希求できる場所や相談窓口の充実、その周知を図っていくことも大切だと感じた。 また、幼児が育っていく時の「受容と共感」、言葉やスキンシップにおける関わりの大切さを再認識した。
その他	グループワークで他の支援者さんの顔を見ながらお話しできて、つながりが嬉しいです。レクチャーは現場で対応する職員の学びになります。ありがとうございました。
その他	レクチャー、グループワークで、今までの相談支援を振り返ったり、新たな視点を得ることができた。
保育・幼児教育関係者	
保育士	事例検討では司会をさせていただきましたが、意外に時間が足りず、話を聞くのみになってしまいました。もっと活発に相手の意見に対して話し合ったりできるようにすすめられたらよかったです。 ミニレクチャーの時間ももう少し長くじっくり詳しく聞きたいです。 じっくり関係性を作るところから始めても、受診となるとかなりハードルの高さを感じます。
保健・福祉関係者	
保健師	・『事例検討』と言うより、その日のテーマを理解する上で、考えやすいよう“仮想事例”を用いるのだと理解し、少し慣れてはきましたが、オンラインで短時間の検討は『不消化』と感じています。グループによってはテーマを更に絞ったり、講師が入ることで検討をが深まる場所もあるようですが、テーマを1つに絞り、情報交換としてはいかがでしょうか。

保健師	今回初めて参加させていただき、とてもためになりました。ゲーム依存まではいかずとも生活に支障が出ている方の相談は多くなっている印象があったため、今回の講義の内容を関係部署とも共有し、相談があったときに少しでも適切な助言ができるようにしたいと思います。
保健師	初めて参加しました。色々な方に伺えて、勉強になりました。 地域で繋がることの強みを活かせるよう、こうした機会を重ねていけると良いと感じました。 夜の時間が参加しやすいです。今後ともよろしくお願い致します。
相談機関従事者	・普段あまりお会いしない教育関係、医療関係の方とお話できて、いろんな支援方法を知ることができました。 ・100人以上が参加する大変勉強になる検討会で、ありがたいです。
相談機関従事者	・ゲーム依存について、いまのお話を教えていただき、本当に感謝いたします。自分で学べることではないので、ありがたいです。次回も参加します。 ・参加者が様々な立場の方で、それぞれがこの問題に直面していることがわかり、つながる先、チームになる先がわかったし、意見交換ができてよかった。
相談員	先生のお話がとても分かりやすく、ゲーム障害の仕組みを理解することができました。 このようなお話しを早い段階で、保護者や学校、福祉関係者が広く聞ける場がもっとあるといいなと思いました。 今後、広く講演するような機会があれば教えていただきたいです。
相談員	様々な所属の方と話すことで、新しい見方を得られたり、自分の知らない機関を知ることが出来てよい機会になりました。
相談員	これまで関わってきたゲーム依存の子に対し、どのような人たちとチームを組み、どのような支援を行ってきたのかについて具体的に伺うことができ、参考になりました。
相談員	毎回、興味ある内容で勉強になります。
相談員	「ゲーム障害」「ゲーム依存」という言葉は、保護者、教職員、医療福祉保健の支援者等にとっては、とてもキャッチーな言葉で、実際に対応に苦慮しているケースが多いことから、興味関心が持たれやすいテーマと思います。 でも、吉永先生や杉本先生のお話を聞いて思ったことは、本人・本児からしたらその言葉は的外れで、現状、現実世界に居場所がなかったり、親子関係が悪かったりでつらい思いをしている中で、ゲームの中だけは満たされる大切な居場所であると思っている状態なのだと感じました。まずはその思いに寄り添いたいです。
相談員	初めて参加いたしましたが、大変勉強になりました。次回も参加したいとお思います。
相談員	いつも学び多い研修をありがとうございます。 多職種が集まる貴重な時間です。今後も引き続き、開催していただきたいです。
行政機関担当者	毎回参加させてもらうたびに納得することやなるほどと思うことばかりです。グループワークでは普段関わらない職種の人とも意見交換することができて得るものが多いです。
その他	実際に患者さんと向き合う先生方がこのような会を開いてくださり、非常にありがたいなと思います。
その他	まずは、依存しなければならない本人の辛さに目を向けるということは、支援者としては忘れてはならない基本であり、その通りだと感じた。一方、依存対象であるゲームを取り上げるのではなく一部受け入れることで家族との関係改善を図るという方法は目から鱗が落ちた感があった。 グループワークで他の職種の方の捉え方や体験を聞くことができて新しい気づきがあり、大変勉強になった。
その他	常に子どもたちを信じて"君たちの味方である"という姿勢を伝え続けていくことが大切だと思いました。 親御さんとも"一緒に考えさせていただく"という姿勢で、親子の関係構築が良い方向に進むように関わっていただけたらと思います。 ゆるく、楽しく。

< 今後の事例検討会に関する要望等 >

医療従事者	
医師 (その他)	適応障害と考えて対応していたものの、あとで振り返れば、統合失調症を発症していたのではないかと思います。統合失調症に限らず、小児科医や教育関係者が抱え込みすぎずに、適切に専門医にバトンを渡すタイミングについてアドバイスあればお願いします。
教育関係者	
養護教諭	睡眠障害について知りたいです。
養護教諭	知的障害やASD傾向のある子どもたちに対する性の指導について。特に、思春期の男児に対して欲求のコントロールについてどのように指導、教育していくのか学びたいです。
養護教諭	「死にたい」と話す生徒への対応と自傷行為やオーバードーズしている生徒への関わり方
養護教諭	性的マイノリティの子どもの対応。どんなリスクがあるのか、またそれに伴ってどんな医療にアクセスしたら良いのか、学校生活での考えられる対応。ヤングケアラーの子どもの対応。
教員	児童、生徒の場合、その後ろには必ず保護者がいます。どの事例も保護者が現状を理解し、対応してくれればいいのですが、実際にはうまく連携できないケースが多く、後手後手になります。 それぞれの事例で、対象児や生徒の一番身近な保護者にどうアプローチしたらいいか、医療の観点からご教示していただけるとありがたいです。 「不登校は単に学校に復帰させるだけでなく、社会的自立を目指す」といいますが、不登校でも進学をもとめてきます。どう関わったらいいのでしょうか。
教員	強い指導に弱い子どもたちについて 少し強く指導をただけでも「学校に行きたくない」「こわい」と言って休む子どもたち… 強い指導をしないに越したことはないが、しなければいけない場面でもできない。
教員	先生方が、関係者に知ってほしい内容を続けてください。
教員	具体的な事例検討がしたいと思い今回参加させていただきました。今回のような内容で、後半は講師の先生方からご指導いただけるとありがたいと感じました。
教員	今回のゲーム依存についてのお話は、とても勉強になりました。 ゲームをしていると静かに時間を過ごしてくれるから…などという話を聞いた時に、その先が心配でした。 今後、成功事例だけでなく、上手くいかなかった事例（架空でも）を通して、陥りやすい事など教えていただけるとありがたいです。
教員	幼児から小学校2年生くらいの、発達障がい疑われ、集団に適応しづらいお子さんと、保護者への対応で、大切なことや、アプローチのポイントを専門的な視点からお聞きしたいです。
教員	愛着障害への支援について
スクールカウンセラー	ゲーム障害の治療を終えた方々のその後についてもお聞きしたいです。
スクールカウンセラー	引き続き、行動嗜癖について深めたいです。また、不登校の背景に先生との関係が出て来ることが時折あり、扱いにくい事例とは思いますが、リカバリーできた例をいくつか学び、参考にしたいです。
スクールカウンセラー	性的違和を感じている、訴えている生徒への対応。
スクールカウンセラー	身体的な不調を訴えて不登校や欠席をする子どもへの対応についてどのように医療と連携したらよいのかをお聞きしたいと思いました。
その他	親・家族支援にフォーカスした事例検討は興味があります。
その他	幼少期など早い段階でのゲーム障害・依存の予防策についてお聞かせください。
その他	オーバードーズする子への対応、自傷行為への対応。 発達障がい・グレーゾーンの子どもの義務教育終了後の支援について

保育・幼児教育関係者	
保育士	不登校、ゲーム障害等の当事者の状況や思いを深く知りたいです。 対応している者として、表に見える行動からだとどうしても裏に隠れている深いところまで冷静に考えられない現状があり、冷静に相手に寄り添っていけるために。
保健・福祉関係者	
保健師	・医療、教育機関、保健、福祉関係者が一堂に会して学び合うことで、ベースを揃えることが機関連携の第一歩かと思います。時間をつくっていただくことが困難な専門医と学び合える場は非常に貴重な場と思っています。 ・医師のミニレクチャーは非常に参考になります。また、医療と地域や教育現場で連携し、上手くいった事例(例えば、今回の講師である吉永先生が、小学校で講演をされた効果とその後の事業展開など)も聞かせていただくと参考になると思います。
保健師	ゲーム依存についてももう少し深く検討したいと思いました。
相談機関従事者	ゲーム障害、不登校、癇癪、学校での他害でお困りの保護者の相談が多いです。連携を深め、支援方法を学習していきたいです。
相談員	あきらかに精神疾患も見られるがなかなか受診につながらないゲーム依存の子に対し、どのような支援を行っているのか具体的なお話を皆さんから伺いたいです。
相談員	オーバードーズについて、勉強したいです。
相談員	初めての参加でした。講師の先生方の熱い思いを感じました。私もその思いを感じながら、講義やグループワークに臨むことができました。 杉本先生がおっしゃっていた記憶に定着しやすくするということがこういうことかと、自分なりに理解しました。先生方の熱い思いに追従できるよう、地域の支援者として頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。
相談員	親に障害特性(発達障害、精神障害など)がある家庭のお子様の養育・成育がなかなかむずかしいと感じております。親支援や子供の支援方法など学ぶ考える機会があるとありがたいです。
相談員	高校生の中退が目立っているようです。 通信制高校の実際など知りたい。
行政機関担当者	以前、暴れる子というテーマで開催してもらいましたが、本人がやめたいと思っていても暴力に及んでしまう小中学生とかかわることが多いので、もっと掘り下げて聞かせてもらいたいです。